

令和元年度第2回 江南区地域公共交通検討会議 質疑概要一覧

<成果指標について>

要旨	回答
<p>タクシーが普段どれだけ生活の足として利用されているか。利用実態等数値で示すことはできないか。</p>	<p>利用実態については、タクシー事業者が毎月輸送人員を報告しているが、江南区における輸送人員について把握するためにはそれぞれの台帳から抽出する必要があり、事業者負担が生じるため指標にはふさわしくないと考える。</p>
<p>公共交通空白地域の解消を目的とするのであれば「公共交通のカバー率」の上昇とした方がよいのではないか。</p> <p>※公共交通のカバー率…総人口に対するバス停から300m圏域、鉄道駅から500m圏域の居住人口割合</p>	<p>公共交通のカバー率については、新たな路線の設置などが具体的でない中、数値目標を設定することは困難と考える。今回お示しした「新たな移動手段の構築」につながれば、カバー率も上昇するため、指標とは別の成果として検討させていただく。</p>
<p>利便性の向上を目的とするのであれば、トリップ数に対する自家用車利用の減少とした方がよいのではないか。</p>	<p>移動実態調査（トリップ調査）は平成23年度、28年度と実施しているが、1回の調査費用も膨大であり、次回調査の規模や実施可能性の見込みが立ちにくい中、指標とすることは難しいと考える。</p>